

## 歴史ある「ぶどう液」の復活を目指して!

～ 田所食品株式会社が新たな加工製造施設の操業を開始 ～

古くから「ぶどう」産地として知られた山元町ですが、あの日、津波は全てのぶどう園と果汁の加工製造施設等に壊滅的な被害を与えました。「マルタの果汁」で知られる「田所商店」もまた、加工製造施設や倉庫、農場に加え、自宅までも津波により失いましたが、幸い人的な被害はありませんでした。また、倒壊を免れた土蔵には36,000リットルのジュースが一斗缶に入った状態で残されていたため、これを足がかりとして再建に向けた一步を踏み出すことが出来ました。



地鎮祭の様子



田所食品(株)の田所社長

あの日から1年3カ月余りを迎えた6月6日、新たな役員を加えた新生「田所食品(株)」は、新加工製造施設建設地で地鎮祭を執り行いました。今秋には、東日本大震災農業生産対策交付金を活用した建坪650平方メートルの加工製造施設が操業を開始し、震災前の農場面積には及ばないものの、1.3ヘクタールのぶどう園を整備し、来春までに苗木を定植します。

「再開を望む多くのお客さまの声と、励ましの言葉に背中を押されてここまで来ました」、「仲間や友人の多くが犠牲になる中、命を長らえた者は、産業を再生し町を復興する責務を負っています」とは、地鎮祭で同社の田所社長が発したメッセージです。同社が6次産業化推進や山元町ブランド

の産業復興の一翼を担うことも、大いに期待されます。

新しい加工製造施設は「ぶどう」だけでなく、「いちご」「りんご」をはじめ小果樹類の加工処理能力を備える予定です。今秋には新生「マルタの果汁」が、新たなラインナップでお目見えします。皆さま、ぜひご賞味ください。

## 自慢のすしで三陸漁業を支援!

～ 仙台朝市の有限会社つぎもが「しその葉ずし」と「漁助すし」を開発 ～

震災後、流通がストップし、街が買い物難民であふれる中、いち早く店を開き、野菜やおにぎりなどの販売を通して多くの県民を支えた仙台朝市。仙台駅から徒歩5分という抜群の立地を誇りながらも、その空間は古き良き風情を今に感じさせてくれます。「(有)つぎも」はこの仙台朝市内にあります。

「(有)つぎも」では、復興支援に繋がる商品を開発したいとの思いから、南三陸産の養殖銀鮭を用いた「しその葉ずし」と主に石巻漁港で水揚げされたサバやサンマを用いた「漁助(りょうすけ)すし」を開発し、7月から販売を始めました。米にはすしと相性の良い低アミロース米の「ゆきむすび」を使用しています。



「(有)つぎも」の方々(左から2番目が千葉さん)

「漁助すし」という名前は「でんすけすいか」からヒントを得ました。「でんすけすいか」は、水田の転作が始まる時代に、稲の代わりにすいかを植えて「田を助ける(田助)」ことに由来して名付けられたとのこと。「漁助すし」という名前には、津波の甚大な被害により窮地にある三陸の漁師を1人でも多く助けたいという同社の思いが込められています。



銀鮭の「しその葉ずし」

調理長である千葉敏夫さんは「3つの大きな漁港（塩釜・石巻・気仙沼）を持っているのは日本で宮城県だけ。それだけ豊かな海で育まれた魚と厳選された米を使い、職人の経験と努力により作られた宮城のすしは日本で1番だと言っても過言ではない」と話してくれました。

朝市の親方たちの賑やかで温かみのある会話を楽しみながら、仙台・宮城の新しい名物「しその葉ずし」と「漁助すし」を探してみたいかがですか。

問 (有)つぎも Tel・Fax：022-224-9380

〔取扱店〕(株)松や【仙台朝市内・仙台三越地下】、(株)波頭水産【さくら野百貨店仙台店地下】、みやぎふるさとプラザ（東京池袋）※みやぎふるさとプラザでは「しその葉ずし」のみを販売

## 七ヶ浜町で大豆の作付を再開しました！



七ヶ浜生産組合による播種作業

七ヶ浜町吉田地区の約5ヘクタールの農地で、大豆の生育が順調に進んでいます。七ヶ浜町では殆どの農地が津波による浸水被害を受けました。今回作付されたほ場は農地復旧工事を前倒して進めたことにより、作付が可能となりました。

7月上旬の大雨により一部のほ場が冠水しましたが、懸命の排水作業等により、その後生育が持ち直し、7月24日の第1回生育調査では「平年並み」と判断されました。大豆を栽培している七ヶ浜生産組合代表の佐藤太郎さん

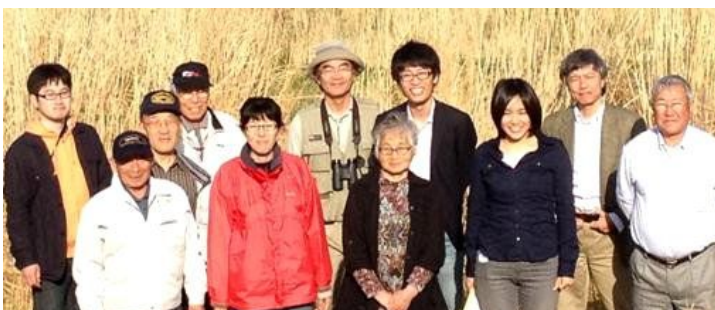
は「多くの支援を頂いて大豆を作れるようになったので、収穫まで適切な栽培管理をしたい」と抱負を語っていました。

県仙台農業改良普及センターでは、適期の病害虫防除や肥培管理により、期待される収量・品質が得られるよう今後も支援していくとともに、七ヶ浜町全体の農地復旧と作付再開に向けて取り組みを進めていきます。



仙台農業改良普及センターによる生育調査

## 「一般社団法人ふらっと一ほく」が人と人との繋がりを支援 ～ “みんな”を巻き込む仕組みづくりを目指す ～



ふらっと一ほくと協力者の方々(右から4番目が松島さん)

「一般社団法人ふらっと一ほく」の代表理事である松島宏佑さんは宮城県白石市の出身で、島根県の隠岐諸島で地域興しのマネジメントの仕事に就いていましたが、被災地の復興支援のために、昨年3月19日に亘理町へ来ました。避難所で不足している物資を個人で集めて運搬する作業を繰り返すうちに、「1人で出来ることには限界がある。30人が集まれば30倍のことができる。300～400人の力を集めるには何をすればよいか」と考えるようになりました。そうして平成23年4月に始めたのが、「被災地」と「ボランティアにきたい人」、「温泉地等の宿泊施設」を繋ぐプロジェクトです。被災地に対しては、片づけ等に係るマンパワーの提供や長期的にまちを応援してくれるファンの創出というメリットを、ボランティア参加者に対しては被災地での宿泊拠点及び休息場所の提供によるボランティアへの参加のし易さを、宿泊施設に対しては、温泉という地域資源を活かした災害時の支援モデルを提案するなど、三方良しを目指したプロジェクトであり、ブログやツイッターによる呼びかけで約800人の宿泊客を集めました。

現在は、津波により壊滅した防潮林の再生のために、生き残った木から種をとり、種から苗木を育て、植樹を目指す「わたりグリーンベルトプロジェクト」に取り組んでいます。

「何かしたい」と思っているけれど、やり方の分からない人に、例えば専門家と繋がりが持てるよう、人と人を繋ぐ懸け橋の役割を果たしたい。多くの住民がまちづくりに関われる土台を作るとともに、持続可能なかたちで地域のファンを増やせるよう取り組んでいきたい。」松島さんの思いは“みんな”の善意を被災地につないでいます。



種からの苗木作り

### 富谷町の直売組織「おんないん会」で会員ほ場見学会を実施しました

富谷町には、地元農家の方々が集まり、仙台近郊の食品スーパーの直売コーナーで新鮮な野菜などを販売する「おんないん会」という組織があります。夏野菜の栽培が本格化する時期を迎え、このたび、「おんないん会」の会員の栽培技術向上のために、「ほ場見学会」が実施されました。これは会員同士でお互いの畑を見て回り、栽培の様子や作付けにあたっての工夫を学び合うもので、2年前から実施しています。参加した会員は自分とは異なる栽培管理の様子を見学したり、栽培技術支援のために出席した県仙台農業改良普及センターの職員に病害虫等について質問し、多くのことを学んでいました。



施設トマトの栽培を見学する様子

「おんないん会」では夏野菜の収穫、出荷作業が一段落したら、冬期の野菜の出荷量を増やすために、秋以降の作付け体系を工夫します。今年はずぼみ菜の栽培面積を増やすとともに、会員間で作付け時期をずらすことにより、出荷量の増加と出荷時期の拡大を図る予定です。

普及センターでは、今後も「おんないん会」の生産体制の改善等に向けた支援を続けていきます。

### 亘理町の「鳥の海ふれあい市場」

#### 日替わり弁当の宅配サービスと「はらこめし」で売上回復を目指す！

亘理町の「わたり温泉鳥の海」は地震に伴う津波により営業を休止し、現在は工事関係者の宿泊所として使われています。

同施設内で新鮮な魚介類や町内産の野菜及び加工品を販売していた「鳥の海ふれあい市場」も、休業を余儀なくされていましたが、昨年12月23日に仮設店舗で土日祝日のみ営業を再開しました。再開の様子はメディアにも大きく取り上げられ、また、復興支援のためのバスツアーなどの利用もあり、3月までは震災以前と同程度の売り上げがありました。そのため、4月からは平日営業を始めましたが、放射性物質に関する基準値の引き上げにより食品への不安が高まったことで、同市場の売上は激減しました。このため、7月から土日祝日のみの営業に縮小しましたが、まだ3月の水準には回復していません。平日勤務の従業員の雇用維持のため、7月9日から新たに日替わり弁当の宅配サービスを始めました。市場内の加工場で1日に約90個を製造し、町内の工事関係者等を中心に配達しています。400円でボリュームのあるお弁当は評判も上々です。



日替わり弁当をPRする菊地さん

9月には亘理町名物はらこめしの製造、販売も開始される予定です。同市場を運営する「鳥の海ふれあい市場協同組合」の代表理事理事長である菊地一男さんはこれを契機に客足を取り戻したい考えで、9月の平日には市場前にテントを設置し、はらこめしの特別販売を計画しています。



現在の「わたり温泉鳥の海」

菊地さんは「亘理の観光拠点である荒浜に震災前以上の賑わいを取り戻したい。そのために私たちが先頭を切って色々なことに取り組んでいく必要がある。もともと鳥の海ふれあい市場は他の産直施設に比べて手狭だったので、規模を拡大することも視野に入れて、多くのお客様を呼び込めるような施設にしていきたい。」菊地さんの希望とともに、「わたり温泉鳥の海」は平成26年4月に営業を再開する予定です。

問 鳥の海ふれあい市場協同組合 Tel:080-1664-5310

## 女性農業者の起業・経営に対する考え方を学ぼう！

～ 「平成24年度亘理地区農村女性の農業経営高度化研修会」を開催 ～

7月12日に県亘理農業改良普及センター管内の女性農業者を対象とした「亘理地区農村女性の農業経営高度化研修会」を開催しました。この研修会は女性農業者が直売所やレストラン等を運営している事例に触れ、地域資源を活かした6次産業化の取り組みや、起業および経営に対する考え方を学ぶことを目的としたもので、30人の参加者は美里町および大崎市で視察研修を行いました。

美里町の菜園レストラン「野の風」では、伊藤恵子代表から「農家レストランの立ち上げと地産地消の取り組み」について話をいただきました。「出会った素敵な女性農業者のように自分も輝いてみたい」、「農産物に付加価値をつけたい」、「若い人に農業や郷土料理を伝えていきたい」など、伊藤さんの人柄が伝わってくる魅力的なお話でした。昼食はキュウリの佃煮をはじめ、しそ巻きやゆば豆腐など、手作りの心のこもった料理を楽しみました。

また、大崎市の(株)デリシャスファームでは、今野栄子専務に加工場と直売所、カフェを案内してもらいながら、「6次産業化の取り組みと商品開発の工夫」について話をいただきました。「玉光デリシャスは形の揃わないものがたくさん出るが美味であり、その美味しさを活かすために加工を始めたこと」や「商品を多様化し、今ではジュースも作っているが、商品に対する評価を直接的に得るため、一昨年カフェを立ち上げたこと」など、これまでの取り組みを説明していただきました。また、カフェではジュースの試飲、出荷終盤の貴重な玉光デリシャスの試食もしました。

参加者は、研修会を通して、女性農業者としての新たな農業経営の姿について楽しく学ぶことができました。



「野の風ランチ」を美味しくいただきました

## □■ おすすめイベント情報

### 仙山交流味祭 in せんだい復興市～秋の恵み～

日時:9月26日(水)～27日(木) 午前10時～午後4時

場所:仙台市勾当台公園市民広場

内容/仙台地域と山形県村山地域で生産された農林水産物や地域特産物を、生産者自らが販売する産直市

問 仙山交流味祭せんだいネットワーク事務局 Tel:022-275-9114

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所  
地方振興部(担当:鈴木, 鞆飼)

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/> (E-Mail) [sdsinbk2@pref.miyagi.jp](mailto:sdsinbk2@pref.miyagi.jp) (TEL) 022-275-9140